

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
平成30年5月号



平成30年度全農千葉県本部園芸事業の取組

全国農業協同組合連合会千葉県本部
園芸部長 加藤 浩生

全農千葉県本部では、3か年計画で定めた重点実施策や実行具体策を実践するとともに、全農自己改革の取組をすすめ、「農業生産の拡大」と「農業者の所得増大」のため、以下の具体的な取組を実施します。

全農千葉県本部では、「オール千葉」として生産基盤を強固にし、安全・安心で美味しい青果物、愛情ある花きの生産振興と、大消費地に近い立地条件を活かした販売力強化を図るため、千葉県・(公社)千葉県園芸協会と連携し、次の重点実施策に取り組みます。

1 食の安全・安心対策の取組強化

産地指導や啓発資料等により、食の安全・安心に向けた取組を進めます。また、「ちばGAP」制度の制定に向けた県との協議を進めます。

また、東京オリンピック・パラリンピック以降においても生産性向上、コスト低減、人材育成の視点から、GAPの普及推進を図ります。

2 生産拡大対策

(1) 出荷量の多い主要7品目の生産の長期化・周年化を推進することにより、JAや生産者の既存選果施設・農業機械等の稼働期間延長を図り、市場占有率の向上に繋がります。

また、地域特産品目(とうもろこし・菜花・枝豆・大和芋・西瓜等)は、生産量の維持・拡大を図りつつ計画的な販売に取り組みます。

(2) 出荷容器・出荷規格の統一・簡素化や統一デザイン(チーバくん)の導入を進め、販売ロットの拡大と出荷時の負担軽減、「オール千葉」体制強化を図ります。

(3) 生産者の高齢化や規模拡大に伴う労働力不足を補完するための農作業受託に関する仕組みの構築について、検討を進めます。

(4) 増加傾向にある青果物の加工・業務用需要に対し、輸入品からのシェア奪回と国産の消費拡大に繋げるため、寒玉キャベツやレタス、ネギを中心に実需者からの要望に応じたマーケットインによる生産振興を進めます。

(5) 本年度より新たに設置された千葉県農業者総合支援センターやJA-TACと連携し、地域農業を担う

経営体に対して、実需者ニーズにもとづく生産・販売提案を行います。

3 販売力強化対策

(1) 人口3,600万人を有する東京圏(東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県)を主なターゲットエリアとして、パートナー市場と販売戦略を共有し、取引先を明確にした予約相対取引(市場契約)ならびに別枠発注販売(先売り)の契約的販売を拡大します。

(2) 産地から東京圏内の実需者配送拠点に鮮度の高い青果物を直納することにより、顧客を囲い込み、安定した販路を確保するとともに、配送コストの削減による生産者の手取り向上に取り組みます。

(3) 千葉県産青果物を重点的に取り扱う販売店で、継続的な販売促進を行い、売場の確保とイメージアップを図ります。

4 系統結集による花き事業の強化

販売先のニーズに対応した生産組織の再編と品質の平準化により、生産・販売の維持・拡大を図ります。また、未共販地区の推進を強化し、共販拡大を図ります。

5 直販事業の強化

(1) 消費形態の変化と多様化する実需者ニーズに対応し、加工・業務用向けの安定供給と取扱拡大に取り組みます。

(2) 直接取引や中間事業者を経由した取引等、複数の販売方法により販路を確保するとともに、パッケージ・集配機能の強化等による量販店対応に取り組みます。

(3) 協同組合間提携をふまえ、生協対応チームによる商品開発・生産振興・産地交流を進め、生協向け販売を拡大します。

6 県産農産物の輸出促進

海外市場ニーズに対応した輸出向け品目の生産振興により、輸出事業に取り組むJAの拡大を図り、県産農畜産物の安定的出荷体制を構築します。

「輝け！ちばの園芸」次世代産地整備支援事業について

生産振興課 園芸振興室

園芸産地の生産販売力強化に向け、省力化機械の導入や施設整備を支援する県単補助事業は、平成 30 年度から『輝け！ちばの園芸』次世代産地整備支援事業』としてリニューアルします。本事業では、従来の事業よりも支援内容を充実させて更なる産地の強化を図ります。

1 事業の目的と概要

本事業では、次の時代を担う意欲的な生産者の規模拡大などにより産地の強化を図るため、「産地戦略(※)」等を策定した産地の生産者に対し、規模拡大に必要な省力化機械等の導入、高収量・高品質を実現するための施設化、既存施設のリフォーム、施設園芸におけるスマート農業の導入を支援します。

※「産地戦略」：数年後の産地ビジョンとその達成に向けた生産販売の取組等について作成

2 事業内容

『輝け！ちばの園芸』次世代産地整備支援事業には 3 種類の事業メニューがあり、取組内容に応じて選択します。

(1) 生産力強化支援型

- 〔補助対象〕 省力化機械や省エネルギー型機械等の導入、園芸用ハウスの整備
- 〔事業主体〕 農協、3 戸以上の生産者組織、認定農業者等
- 〔補助率〕 1/3 以内(農協、生産者組織等)
1/4 以内(認定農業者等)



園芸用ハウスの整備 高性能収穫機の導入で省力化

(2) 園芸施設リフォーム支援型

- 〔補助対象〕 ガラス温室、鉄骨ハウスの鋼材の改修等
- 〔事業主体〕 認定農業者、認定新規就農者等
- 〔補助率〕 1/4 以内

(3) 園芸施設スマート農業推進型 **新設**

- 〔補助対象〕 環境モニタリング装置、炭酸ガス施用装置等
- 〔事業主体〕 認定農業者、認定新規就農者
- 〔補助率〕 1/3 以内

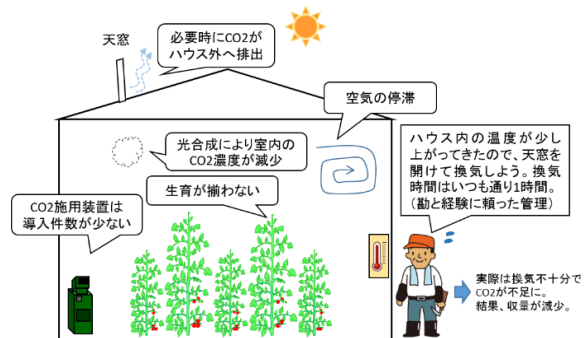
3 「園芸施設スマート農業推進型」の新設

新たな事業メニュー「園芸施設スマート農業推

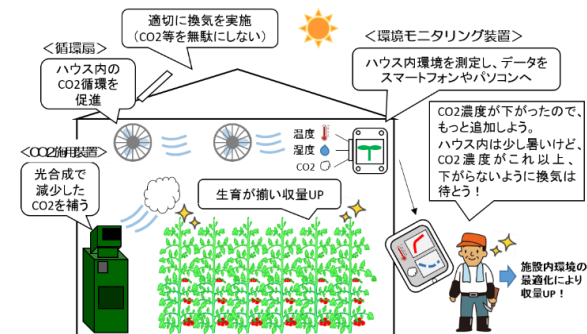
進型」では、既存園芸施設への環境モニタリング装置や炭酸ガス施用装置等の導入を支援し、ICT などの最新技術の活用により収量を向上させる「スマート農業」の推進を図ります。

事業のイメージ

<事業実施前>



<事業実施後>



4 事業実施の流れ

事業申請は市町村で行います。事業実施年度の前年度 5～6 月頃までに市町村担当課に申請(※)してください。

事業採択は事業実施年の 5 月以降行います。ポイント制により、生産量の拡大や高付加価値化等を図る先進的かつ意欲ある担い手を優先的に採択します。

※平成 30 年度に実施する事業メニュー「園芸施設スマート農業推進型」については、平成 30 年 5 月下旬頃までの事業申請で、8 月以降に事業実施の予定です。期日については、市町村担当課にお問い合わせください。

5 お問い合わせ先

最寄りの各農業事務所企画振興課若しくは、千葉県農林水産部生産振興課 園芸振興室 (TEL: 043-223-2882)

野菜ニュース



イチゴの育苗期も天敵でハダニ防除！

山武農業事務所 改良普及課
普及指導員 武内 理香

イチゴのハダニ類の天敵であるミヤコカブリダニ（商品名「スパイカルプラス」）を育苗期から導入することで、ハダニ類の密度が低く推移し化学合成農薬（殺ダニ剤）の使用回数削減効果が確認できました。ハダニ類の薬剤抵抗性発達の抑制につながると考えられます。

1 はじめに

山武地域のイチゴ栽培では観光・直売を中心に、天敵放飼によるハダニ類の防除が行われています。その技術は、本ぼ（収穫期）で広く定着していますが、育苗ほ（育苗期）におけるハダニ類の防除には主に化学合成農薬が使用され、多数回の農薬散布や薬剤抵抗性の発達、苗に残存したハダニ類の本ぼへの持ち込みが問題となっています。そこで、育苗期からの天敵導入によるハダニ類の防除体系の現地実証に取り組みました。

2 育苗期の天敵放飼

天敵には長期間の定着が期待されるミヤコカブリダニのパック製剤（スパイカルプラス）を使用し、育苗開始まもない4月中旬に放飼を行いました。育苗期には炭疽病対策のため殺菌剤の定期的な散布が不可欠であり、慣行では天敵に対して影響のある剤も広く使用されています。今回の実証においては、天敵の効果を期待する期間には、炭疽病の発病が見られない限り、天敵への影響の少ない殺菌剤を中心に使用することとしました。

平成 29 年 4 月 5 日にコロマイト水和剤、4 月 12 日にマイトコーネフロアブルを散布し、ハダニ類の密度を低下させてから、4 月 18 日に天敵の放飼を行いました。天敵放飼後は、ハダニ類の発生は見られず、定植直前まで殺ダニ剤を使用することなく、防除することができました。また炭疽病の発生は認められず、ランナー切り離し後期の 7 月下旬まで、天敵に影響のある殺菌剤の使用を控えることができました。

本ぼにおいても天敵放飼による効果の検証を行いました。育苗時に天敵放飼を行った苗を定植したほ場においては、3 月中旬までハダニ類の発生はほとんどありませんでした。

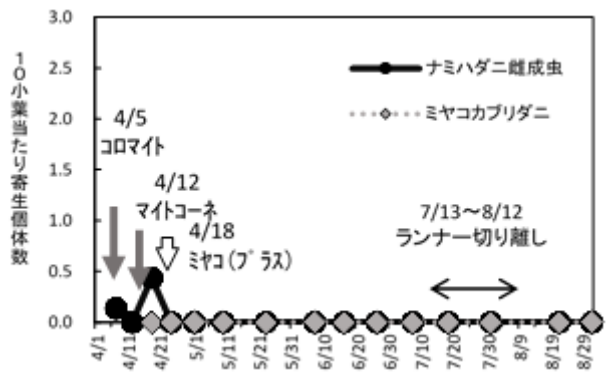


図 2 育苗期におけるハダニ類及び天敵発生推移



図 1 親株へのスパイカルプラスの放飼

3 将来の方向性と課題

ハダニ類の薬剤抵抗性は発達しており、育苗期の天敵利用が地域に広まることで被害拡大を防ぐことにつながると考えられます。一方、天敵利用により使用できる薬剤が限定されることもあることから、薬剤防除と組み合わせた育苗期から本ぼ管理までの防除体系を提案し、イチゴ栽培の天敵利用技術の普及を図っていきます。

果樹ニュース



千葉県果樹園芸組合連合会なし研究部の 新たな取組について

千葉県果樹園芸組合連合会
なし研究部 部長 伊藤 康裕

県内の 17 地域梨業組合の中堅・若手なし生産者で構成する千葉県果樹園芸組合連合会なし研究部は、平成 29 年度の新たな取組として、県内なし栽培の課題について共通認識を持つとともに、産地の中核となるリーダーを育成するため「リーダー研修会」を開催しました。

1 なし研究部の活動について

千葉県果樹園芸組合連合会なし研究部（以下、「なし研究部」）は、県内の中堅・若手なし生産者 259 名で構成する組織で、老木の改植が課題となっている中、平成 13 年 3 月の設立以来一貫してなしの早期成園化・省力化技術の習得を目指した取組を実施しています。

特に、農林総合研究センター果樹研究室に御協力いただきながら、定期的実施する早期成園化・省力化に向けた技術研修を中心に、農林総合研究センターやその他研究機関等から最新の技術情報を得るための現地研究会、県内外の先進地事例を学ぶ視察研修会など、活発な研究活動を展開しています。



技術研修会の風景

2 産地の課題共有に向けた新たな取組

「リーダー研修会」

活動を推進していく中で、地域の研究部活動を更に活発にしていくためには、まず「地域の中核となるリーダーを育成すること」が重要だという思いから平成 29 年 12 月に「リーダー研修会」を開催しました。

研修会では、あらかじめアンケートによって抽出した「改植の推進」や「経営改善・雇用確保」など地域の課題について、地域の代表者とグループ討議を実施しました。

代表者からは、「改植を更に進めたい」「改植を進めるには白紋羽対策が急務」という前向き

な意見が出る一方、「後継者不足が深刻で、これからの産地維持が困難」など様々な意見が出され、各地域の課題について「なし研究部」で認識を一つにすることができました。

出された意見については、「技術的課題」とそれ以外の「全県で取り組む課題」にまとめ、親組織である千葉県果樹園芸組合連合会なし部会（以下、「なし部会」）に報告しました。

そして、「後継者不足で、産地の維持が困難」等、全県で取り組むべき課題については、「なし部会」に取り上げていただくことになりました。今後は「なし部会」事業の中で、「産地をどう維持していくか」について生産者・関係機関との情報交換会が予定されています。



リーダー研修会「グループ討議」の風景

3 今後のなし研究部の活動

今回実施した「リーダー研修会」では、若手・担い手の目線でなし栽培の問題・課題を抽出し、平成 30 年度から「白紋羽病対策」等について、技術研修会が開催できるよう検討しています。

また、活動の見える化を目指して、Facebook で、研修した内容等の情報発信も始めたところです。

今後「なし研究部」は、これまで実施してきた技術研修の他にも、リーダー研修会を通して見えてきた「新たな技術的課題」に取り組むとともに、「なし部会」ともさらに連携した活動を推進していきます。

経営高度化支援に向けた 「ちば農業経営相談協議会」の設立について

公益社団法人千葉県園芸協会産地振興部

去る4月10日に、県や関係団体を構成員とする「ちば農業経営相談協議会」を設立しました。協議会では、農業経営の高度化や効率化を支援するため、相談窓口を設置し、相談内容に応じた専門的なアドバイスを行います。

1 取組の背景

近年の農産物価格の低迷や生産コストの上昇、国内消費の減少などを背景とし、今後の農業経営は、経営管理能力を向上させ、規模拡大や6次産業化等、生産力・販売力を一層強化することなどが求められています。

協議会では、こうした課題に対応するため、国の「農業経営者総合サポート事業」を活用して「ちば農業経営相談所」を設置し、経営体からの相談に対して、経営診断や専門家の派遣により、経営の改善や発展を支援してまいります。

2 協議会の構成と主な活動

協議会は、千葉県、一般社団法人千葉県農業会議、千葉県農業協同組合中央会及び当協会の4者で構成し、農業者の経営高度化等に資するための相談対応を主な業務として、商

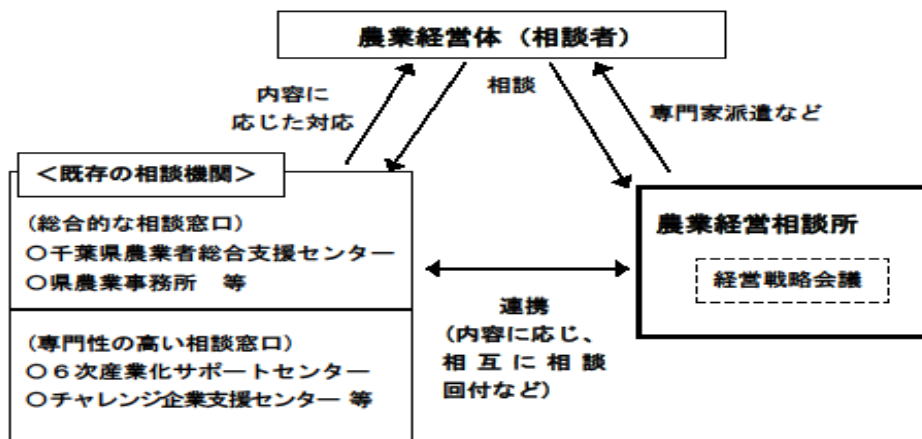
工系団体や専門家と連携した専門家派遣体制の整備を行います。なお、事務局は、当協会と県が共同で担当します。

3 相談対応体制について

今後、効果的かつ円滑な相談対応のため、①協議会構成員及び専門家等からなる「経営戦略会議」を設置した上で、②地域で営農支援を担う県農業事務所や多様な担い手に対して支援を行う千葉県農業者総合支援センターをはじめ、6次産業化サポートセンターやチャレンジ企業支援センター（農商工連携）などの関係組織との連携を確保した相談体制を構築してまいります。

なお、相談窓口開設に当たっては、広く御利用いただくために、ホームページ等により周知を図る予定です。

相談体制のイメージ



千葉県立農業大学校 オープンキャンパスの開催について

農業大学校の授業や実習を見学してみませんか。
学生寮や農場も御案内します。

日時：第1回 平成30年6月11日(月)～15日(金)
第2回 平成30年8月20日(月)～23日(木)
(午前10時20分から午後1時30分まで)

場所：千葉県立農業大学校

内容：学校施設及び実際の授業や実習の見学
(授業や実習内容等の詳細は、本校ホームページにてお確かめください。)

申込期限及び方法：メール又はFAXにて各々、下記の期限
までにお申し込みください。

第1回 平成30年6月1日(金)まで

第2回 平成30年8月9日(木)まで

なお、申込書は、本校ホームページからもダウンロードできます。

申込先：千葉県立農業大学校 農学科

〒283-0001 東金市家之子1059

電話：0475-52-5122

FAX：0475-54-0630

<http://ww.pref.chiba.lg.jp/noudai/index.html>

千葉県立農業大学校 一日体験入学の開催について

農業大学校の専攻教室の実習を実際に体験してみませんか。学生寮や農場も御案内します。

日時：第1回 平成30年6月16日(土)
第2回 平成30年8月24日(金)
(午前10時30分から午後3時まで)

場所：千葉県立農業大学校

内容：学校施設の見学及び専攻教室の体験実習
(実習内容等の詳細は、本校ホームページにてお確かめください。)

申込期限及び方法：メール又はFAXにて各々、下記の期限
までにお申し込みください。

第1回 平成30年6月1日(金)まで

第2回 平成30年8月9日(木)まで

なお、申込書は、本校ホームページからもダウンロードできます。

本校に関心のある方はこの機会に、是非、体験実習に参加してください。

申込先：千葉県立農業大学校 農学科

〒283-0001 東金市家之子1059

電話：0475-52-5122

FAX：0475-54-0630

<http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/index.html>

平成30年度千葉県立農業大学校 農業者養成研修(後期)の募集について

県内で、新たに就農する方や、既に就農している方が対象です。基礎的な農業知識・技術を習得する研修を開催しています。本研修は、研修期間が3か月の基礎研修、6か月の専門研修があります。

1 研修期間

基礎研修：平成30年9月5日(水)～

平成30年11月30日(金)

専門研修：平成30年9月5日(水)～

平成31年2月28日(木)

2 研修内容

(1) 基礎研修：講義、農場実習(野菜・花きの栽培管理)、校外学習、希望作物栽培実習等

(2) 専門研修：基礎研修の内容に、農家実習等

3 募集人員

(1) 基礎研修：5名

(2) 専門研修：10名

4 応募受付期間

平成30年6月11日(月)～

平成30年6月29日(金)(消印有効)

5 選考方法

書類審査、面接

6 受講料

1か月3,300円

(教科書代等別途実費が必要)

詳しくは、農業大学校農業研修科まで、御連絡ください。

千葉県立農業大学校 農業研修科

〒283-0001 東金市家之子1059

電話 0475-52-5121

FAX 0475-54-0630

<http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/noudai01@mz.pref.chiba.lg.jp> (受信専用)